

広報

もり 中部の森林



私の森語り「自然の遊びを通じた共育」
学校法人いづな学園 子どもの森幼稚園 副園長 宮崎 あつみ 温

写真：土煙をあげて作業する新型地拵クラッシャー
(北信署管内)

特集

・ 新型地拵クラッシャーの実演見学会

シリーズ

・ 各地からの便り、森林官からの便り、私の森語り、
中部の保護林、秘蔵写真・今は昔の林業



2024/No.248



林野庁中部森林管理局



新型地拵クラッシャーのアタッチメント（ヘッド）の性能について解説を聞く参加者（ドローンによる上空からの撮影）

新型地拵クラッシャーの

実演見学会を開催

【北信森林管理署】

九月二十七日、長野県信濃町しなのまちの

霊仙寺山国有林れいせんじやまにおいて、当署と

長野森林組合との共催による造林作業の省力化に向けた新型地拵クラッシャーの実演見学会を開催しました。

当日は、信州大学をはじめ、長野県や管内の自治体、林業事業者関係者、機械メーカーの担当者など、県内外から総勢約七十名が参加し、新型クラッシャーによる地拵え作業や下刈作業、林道の除草作業の実演の様子を見学しました。

今回使用しているイタリア製のクラッシャーは、地拵えのほか、林内における様々な作業での運用が可能となるよう、各種作業を実践しながら、機械メーカーと改良を進めました。

また、各作業における効率化を図るため、ICT（情報通信技術）

の活用も進め、各現場でドローンによる地形把握や、GNSSを活用した作業エリアの設定を行うなど、実用化に向けた実証実験を重ねた結果も反映されています。

参加者は、担当者に機械の性能や特徴など様々な質問を投げかけながら、各種作業の実演やクラッシャー本体を非常に興味深いまなざしで見学していました。

近年、国有林野を含む日本国内の森林は、森林資源の成熟による主伐（皆伐）の増加に伴い、主伐後の再造林をいかに低コストで実行するか、また、下刈作業は夏場の猛暑の中で行われるため、作業の負担をどれだけ軽減できるかが課題となっています。

当署ではこの課題を解消するため、各方面の皆様の協力を得ながら、各種造林作業等の機械化による作業負担の低減、低コスト化に向け、今後も試験的な取組や実証実験を積極的に行ってまいります。（次ページで機械や実演の様子を紹介）

こちらはローラー部分の反対側の面。
クラッシャーの高速回転により粉碎され、飛散するものをチェーンにより防御して、機械や周囲への損傷を与えないようにしています。

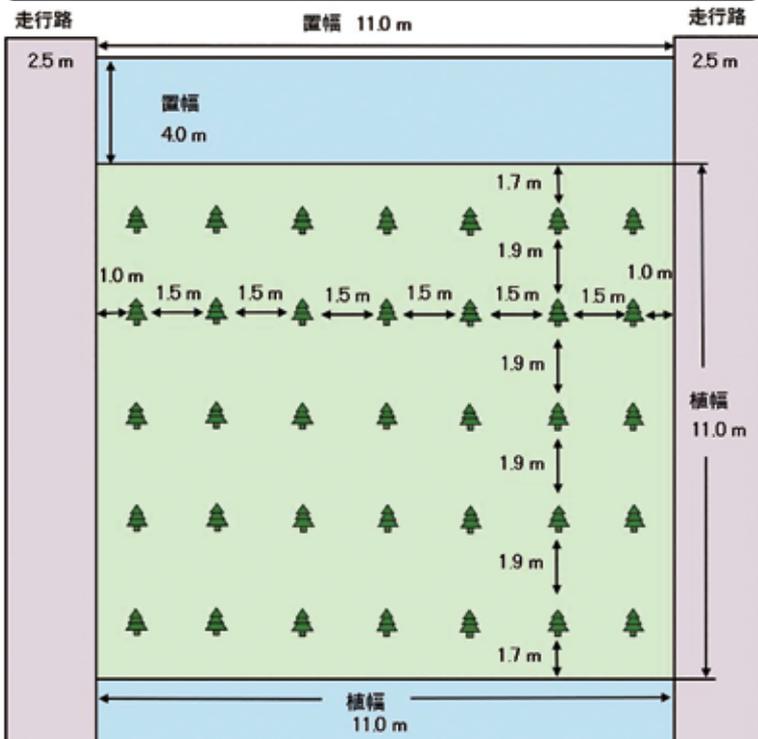
粉碎用ローラーの強度、パワーが増したクラッシャーが切株を削る様子。**タングステンのチップ**で削るように切株の高さを下げていき、さらに削る場所をずらしながら粉碎していくので、切株の大きさにかわらず作業が可能です。右下はローラー部分の拡大です。



あらかじめ、機械幅を見越した走行路を確保しておく、クラッシャーのヘッド部分の幅は1m弱なので、通常の植栽間隔であればクラッシャーによる苗木の間の刈払いが可能です。



クラッシャー地拵作業前(上)と作業後(下)



上空から見ると



今回は、デモ操作のみでしたが、令和7年の夏に地拵クラッシャーによる下刈作業の実証試験を行う予定です。



地形把握や作業エリア設定にICTを活用

下刈作業のデモ操作

森林管理の大切さなどを実感
高校生のインターンシップを受入



【飛騨森林管理署】

九月三日から五日の三日間、岐阜県立飛騨高山高等学校環境科学科の二年生二名が、インターンシップ生として当署の業務を体験しました。

初日は、業務内容などの説明を受けた後に、乗鞍岳の岐阜県側となる乗鞍国有林へ移動し、職員の指導を受けながら、登山道に設置されている、古くなったロープ用支柱の交換作業を実施しました。家で薪割りをやっているという生徒は掛矢(木製ハンマー)を上手に使用して芯を外さずに打ち込むことができ、森林官からも感心して見守っていました。

二日目は、高山市清見町の麦島国有林において、森林官の指導のもと、間伐予定箇所の標準地調査を実施しました。現地は初回の間伐を実施する箇所で、標準地内の立木を測定した後、立木と立木の

間の距離や成長の優劣から間伐する木を選ぶ「牛山式」の説明を受けて、初めての選木作業を行いました。選木を終えた後、調査結果に基づいて標準地内の材積や間伐率を算出したところ、予定する間伐率より低いことが判明したため、選木を見直して再度算出を行い、予定の間伐率に達したことを確認して標準地の設定と調査を完了しました。

その後、民有林との境界へ移動し、森林官から境界の管理は国有



標準地調査を行う様子

林管理の基礎であることや、主要な境界は毎年確認し報告していることなどの説明を受けました。生徒は真剣に耳を傾け、業務の大切さを理解したうえで、民有林との境を示す境界標の埋設状態の確認や、境界標の位置を示す見出標の設置などの境界巡検作業を行いました。

三日目は、白川村内の大白川国有林において治山事業を主体とした内容で実施しました。

今年度、同国有林内では二箇所での山腹工事を実行しており、それぞれの現場で、工事の概要や監督職員の業務等について説明を受けてから、工事を実行する事業体の案内で作業地へ移動、急傾斜地における作業を見学するとともに、実際に使用している道具による作業なども体験しました。

また、工事現場への移動途中には、岐阜県が実施している野生動物モニタリング調査へ協力する形で、センサーカメラのメンテナンスとして電池交換作業も行い



道具を使用した突き固め作業の体験

後日、生徒から届いた手紙には、体験を通して森林管理の大切さや治山事業の大変さを学ぶことができたとの感想に加え、今後の進路を考えるうえで参考になったとの記載もありました。

森林・林業の現場を取り巻く環境は依然厳しいものはありますが、こうした体験を通じて森林の大切さを学んでもらうとともに、職業選択の一つに加えていただけるよう今後も積極的に受け入れをしていきたいと思えます。

中央アルプス駒ヶ岳で
植生復元作業



【木曽森林ふれあい推進センター】

九月十日、長野県宮田村の黒川国有林(木曽駒ヶ岳)で、平成十七年から当センターが主体となり実施している高山植物の植生復元作業を行いました。

この取組は、登山者の入込増加が誘因と考えられる踏み荒らしや、大量の降雨、融雪水、凍結による砂礫の移動、強風などが登山道周辺の植生の荒廃に拍車をかけていることから、植生復元を目的に、植生マットの敷設や播種などを行うものです。今年も、上伊那地域振興局、駒ヶ根市、宮田村及び局、南信・木曽署から計十八名が参加しました。

当日までの準備作業として、事前に植生マットの運搬と播種用の種子採取を行います。七月に落石災害が発生したため、資材運搬等に必要道路が通行止めとなり着手が遅れましたが、署職員の応援により本番までに準備作業が完了しました。



霧中での植生マット敷設作業

当日は駒ヶ岳ロープウェイ千畳敷駅から駒ヶ岳へ向かう途中にある山小屋(天狗荘)付近の登山道沿いで、表土の上に植生マットを敷いて石やペグで固定し、マットの下に種子を播き、一時間半程で予定した区域の作業を終えることができました。

過去のモニタリング調査では、植生回復が確認されるまでにはマット敷設から五〜六年程度の時間が必要との報告もあります。これまでの復元箇所には徐々に植生が回復する様子も見られることから、今後も関係機関と連携して高山植物の保護・復元に取り組んでまいります。

「秋の森マルシェ」に参加



【南信森林管理署】

十月五日、長野県伊那市の鳩吹公園において開催された「秋の森マルシェ」に参加しました。

「秋の森マルシェ」は、「伊那市ミドリナ委員会」が主催する、自然と触れ合いながら楽しく地域の森を感じてもらおうイベントで、今回が三回目の開催となります。林業、木材産業、建築業等の関係者ら二十四の団体等が参加し、工作教室やワークショップ、各種販売などが行われ、当署も初回から毎回参加してきました。

当日は、台風の影響で雨が降ったり止んだり不安定しない天気でしたが、多くの家族連れで賑わいました。当署は、輪切りにした木材に、電気ペンの熱で焦がして文字や絵を描くウッドバーニングを企画したところ、開始から終了まで絶え間なく親子連れが訪れ、順番待ちの予約をしてもらうほどの人気ぶりでした。工作の過程では、子供たちが自分の選んだ木材の名



親子連れでにぎわうブース

前を聞いたたり、木材の焦げた匂いを確かめるなどして楽しむ様子が見られました。会場では、過去にイベントへ参加したベテラン職員の実験と反省を活かして、若手職員とお互いに協力しながら森の恵み、木の魅力などを伝えることができました。

これからも、関係者と連携し、地域の森林を身近に感じる機会の提供に寄与してまいります。

飯島町主催「森の学校」に参加

【南信森林管理署】

十月四日、長野県飯島町役場が主催する、町内の小学四年生六十八名を対象とした森林教室「森の学校」に、講師として県職員五名のほか当署から六名の職員が参加しました。

本イベントは、飯島町の子供たちに森林のはたらき・大切さを学んでもらうために開催されるものです。当日は雨天となったため、飯島町B&G海洋センターにて室内での開催となりました。

当署が企画した「森の設計図」の作成は、紙芝居で森林のはたらきについて学んだ後、八名ほどのグループごとに、自分たちの理想の森林(森の設計図)を大きな紙に描くというものです。

まず目を閉じて、紙芝居で聞いた森林の多様なはたらき(木材の生産や土砂災害防止、空気をきれいにする等)を思い出しながら一人一人が森林をイメージした後、出てきたアイデアをグループ全員



みんなで理想の森林を設計中

で一枚の大きな紙にクレヨンで描いていきます。その途中、当署職員から、生態系の頂点であるフクロウが棲める森林にするよう課題を出してみると、子供たちは「フクロウが食べるものは何だろうか?」「どういうところに棲んでいるかな?」と思考を巡らせながら絵を描き加えていきました。また、動物の餌となる実がなる木や草原のような多様な環境を、実際に自分の手で描いてみることにより、それぞれのつながりや重要性についてさらに理解を深めていまし

た。なかには、風力発電所やダムなどを、人の生活にかかせないものとして進んで描き加えている子もおり、子どもたちの知識の深さにも驚かされました。

「森の設計図」

完成後は、県職員が企画したモルック・葉っぱカルタを実施し、森林から生み出されたものに様々な楽しみ方があることを体感しました。

子どもたちは、今回の体験を通して、自分

たちの身近にある森林には多くの機能があること、この先何十年、何百年後も森林からの恩恵を受け続けるためには、多種多様な動植物が棲めるような環境を維持しな



「森の設計図」の完成作品 池には魚、川にはダム、森には様々な生き物が棲んでいる

ければならないということを学ぶことができたと思います。今後子どもたちの発想力を広げられるような森林環境教育の実施に努めてまいります。

シリーズ

森林官からの便り

【愛知森林管理事務所

豊田森林事務所】

首席森林官 小竹 尚久

豊田森林事務所は、愛知県
犬山市、瀬戸市、豊田市の北
部岐阜県境に点在する八つの
国有林二、九一三ヘクタ及び七つの
公有林野等官行造林地を管理
しています。

犬山市にある、犬山及び八曾
国有林は犬山・八曾自然休養
林として、瀬戸市にある瀬戸
国有林は定光寺自然休養林と
して親しまれています。この
ため、来訪した皆様が安心して
利用できるよう林内の危険
木処理や山火事防止パトロー
ルを行っています。いずれの
国有林も都市近郊林として多
くの利用がありますが、道路
沿線に位置することから不法
投棄が絶えず、ゴミの回収に

国有林の現場の最前線で、働く
森林官の仕事や、管轄する地域
の特色などを紹介します。

時間をとられることが多く、残
念な気持ちになることも少な
くありません。しかしながら、
来訪の皆様にご気持ちよく利用
していただくためにも、進入
禁止措置や不法投棄防止など
を粘り強く呼びかけていきま
す。



国有林内に投棄された大量のゴミ



春先の森林交流館

定光寺自然休養林内には、平
成十五年に建てた「森林交流館」
があり、委託管理により運営
され、森林と利用者をつなぐ役
割を果たしています。館内には、
展示物も多く、訪ねられた方
からは、「このような景色の良
いところに素晴らしい施設が
あったんですね」との感想も多
くいただいているところです。
是非多くの方に訪れていただ
きたいと願っています。



犬山国有林から市街地、木曾川を望む（中央に犬山城、右手奥に航空自衛隊基地）

■未来の担い手へのメッセージ
令和4年度から再任用職員
として勤めています。現場
にいると今もって知らないこ
とも数多くあります。現場に
いるからこそ、そうかと気が
付けることは現場の強みです。
是非、「現場を見て、考える」こ
とを養っていただければと
願っています。



〈シリーズ「私の森語り」〉

シリーズ

「私の森語り」

もりかた

森林・林業との関わりの中で、
様々な課題に挑戦されている方
の取組を紹介します。

「自然の遊びを通じた共育」



こどもの森幼稚園 副園長 宮崎 温
「あっちゃん」と呼ばれています

■自己紹介

長野市生まれ。関東の大学を卒業後、地元長野市内に戻り、こどもの森幼稚園に就職。

現在は、こどもの森幼稚園で働 きながら、長年の自然保育経験を活かし、学生や保育者の皆様に実践的な自然保育の授業や講習を行っていています。

■活動内容

こどもの森幼稚園は、昭和五十八年に六名の園児で内田夫妻が手造りの園舎で開設した「こどもの森幼児教室」が始まりで、日本の森のようちえん発祥の地であり、四十一年の歴史があります。平成十七年には、学校法人いづな学園こどもの森幼稚園として認可

されました。また長野県が推進している信州型自然保育認定制度においても、特化型の認定を受けている幼稚園です。

長野駅から車で三十分程、標高一、〇五〇メートルの飯綱高原に位置し、周囲を山、川、森に囲まれた豊かな自然の中にあります。園庭には、自然のままの沢、林、野原があり、沢にはサワガニ、ホタル、カエル、ヤゴ等が生息し、林や野原には様々な季節の野の花が咲き、多くの生き物(カナヘビ、クワガタ、ヘビ、ハチなど)と共生しています。



緑に囲まれた中にある園



園庭で自由に遊ぶ子ども達



道草散歩の様子



雪の積もった園庭でソリ遊び

教育目標には、【豊かな自然の中で四季を感じながら遊びこむこと】【自分を大切にして好きなことに夢中になること】【対話の中で全ての存在を認め、命を大切にすることも】の三つを掲げています。

日々の園活動は、四季をはつきりと感じられる園庭での遊びを主軸としています。また、近隣の高原や森(戸隠高原や飯綱町)へ一日掛かりで出かける散歩があり、道草散歩を楽しんでいます。

■メッセージ

身近な自然(環境資源)を活かした保育を!

身近な自然を活かしながら、没頭して遊びこむことで、こどもの主体性、創造力、人間関係などが育っていきます。昨今、幼児期の遊びからの学びに多くの注目が集まり、例えば非認知能力(IQな

どで測れない内面の力)を育てることで、将来の生きる力の基礎を育むことができます。四十年前と変わらぬここ飯綱高原で遊びを主軸とした体験を大切にしていきたいです。

保育は人である!共育(共に育つ大人と子ども)

子どもの可能性や能力を引き出すためには、そこに関わる大人の存在が特に大切であると私は思います。大人だから、先生だからという考えではなく、大人も子どもと共に育つ中で一緒に笑い、学び、時に考えながら様々な問いを楽しみたいと思っています。

■連絡先

学校法人
いづな学園 こどもの森幼稚園
長野県長野市上ヶ屋
二四七一―二五五四

TEL: 0266-239-2731
FAX: 0266-239-2169
<https://www.iizuna-gakuen.info/>



いづな学園



こどもの森幼稚園の Instagram

我が国最古のカラマツ人工林

浅間山カラマツ希少個体群保護林

設定目的

当該保護林内のカラマツは、江戸時代末期の嘉永三年（一八五〇年）頃に当地域を治めていた小諸藩によって植栽されたものと伝えられています。

現存するカラマツの人工林としては、我が国で最も古い造林地として学術的に貴重であるため、個体群を保護・管理しています。

地況・林況

長野・群馬県境に跨る浅間山（二、四九三㍍）南麓、標高約一、〇〇〇㍍の緩やかな斜面に位置しており、上層にはカラマツ、下層木にはヒノキやウラジロモミが生育しています。

シリーズ

中部の保護林(第43回)

所在地
長野県北佐久郡御代田町



国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年（大正4年）以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイヤルイン：026-236-2612



※詳細は、コードを読み込んでください。

シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第43回

中部森林管理局総務課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介いたします。

「裏木曾」その七

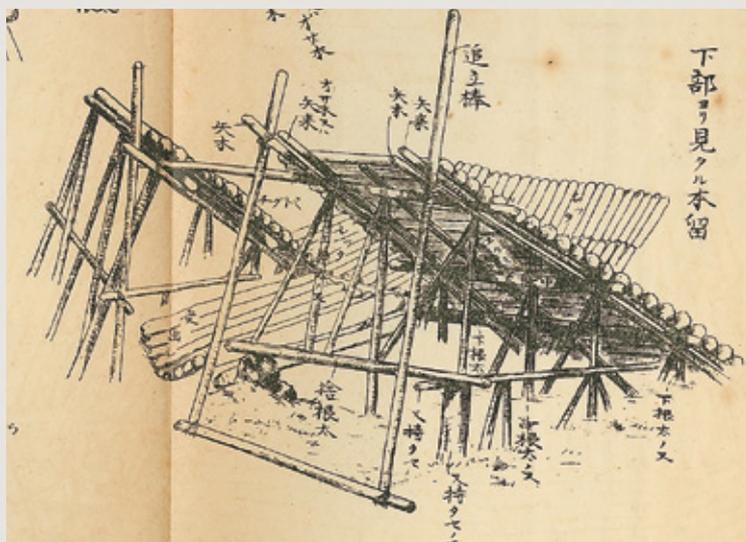
集材(ほさぬき)・留(まや)

木の伐採・造材・検尺が終わりますと、貴重な大材以外は斜面を利用して滑り落として運んでいきます。滑り落とすルートに木を集めることを「集材」「寄せ木」あるいは裏木曾では「ほさぬき」と呼びます。



大正時代初め頃の「ほさぬき」のイメージ
〔付知川に於ける材木伐出の沿革と絵解〕より

集めた木を山の斜面で集積・整理する場所として「留」(裏木曾では「まや」とも)が設けられました。これは運材ルート上の始点や区間ごとに設けられるもので、鉄道ならば駅に相当するものと言えます。

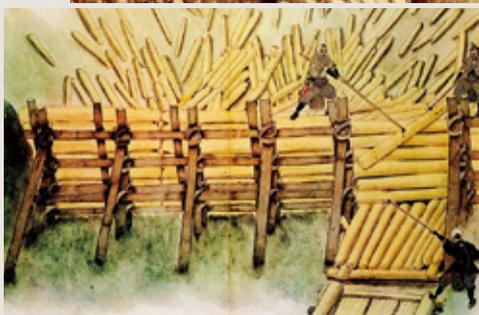


「留」(まや)の構造図
(大正5年帝室林野管理局発行「木曾御料林之造材運材」より)

傾斜地で木を集積するために、丈夫な木が藤蔓で堅く結ばれたしつかりとした構造だった。

たようです。上から滑り落とされてきた木が飛び出さないように斜面に対して二十度から三十度の角度で逆勾配がつけられました。また、「まや」(留)から「まや」へと木を動かすことになるので、山の斜面での運材を「まやはかり」と呼ぶこともあったとのこと。

(上写真) 明治末頃、木曾での留(まや)の様子



(下図) 大正時代初め頃の裏木曾での「まや」
〔付知川に於ける材木伐出の沿革と絵解〕より

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかししの写真を紹介するサイトです。
当サイトへは、コードを読み込んでください。



「国有林の地域別の森林計画」
縦覧のお知らせ

【計画課】

中部森林管理局では、森林法に基づき、管内の森林計画区（流域）別の国有林を対象として、「国有林の地域別の森林計画」をたてています。本計画の指針となる「全国森林計画」に即しつつ、地域の特性を踏まえながら、森林の整備及び保全の目標並びに伐採等の施業方法についての考え方を定めています。

本年度は宮・庄川、千曲川下流の二計画区において計画を樹立するとともに、神通川、中部山岳、伊那谷、木曾谷、尾張西三河、東三河の各計画区において計画を変更するため、計画書案の縦覧を行います（ご意見を募集しています（十二月六日まで）。詳細は局ホームページをご確認ください。
<https://www.rinyamaff.go.jp/chubu/press/kouhou/R6/keikaku/241107.html>



地方自治体への出向者等の
交流会を開催

【総務課】

十月二十三日～二十四日、民国連携の推進と若手職員の資質向上を図るため、林野庁から中部森林管理局管内の地方自治体への出向者、地方自治体から当局への出向者、他局から多様な勤務として当局に勤務している者及び多様な勤務を終え当局に戻ってきた職員との間で交流会を開催しました。

初日は、出向先での業務内容や他局に勤務して感じたこと、中部局に勤務しての感想等について意見交換しました。その後、北信森林管理署管内にて、国有林野の活用事例（貸付地管理）として貸付スキー場跡地、D材（枝条等）の有効活用事例として木質バイオマス発電施設「いびづなお山の発電所」を視察しました。二十四日は、木曾森林管理署管内の天然ヒノキ等の保安全管理

「木曾悠久の森」、急傾斜地における架線集材による素材生産の現場視察を行いました。

交流会を通じ参加者からは、

「国有林は民有林が求めるもの、民有林に波及できる林業を進めてほしい」、「民国の連携希望として、まだ採算の合わない新しい技術、民有林では行っていない技術を国有林で取り組んで検討会を開催してほしい」、「今後も密に情報共有しながら交流したい」、「人員不足がどこも深刻だが、林業に携わる公務員同士の協力体制や人間関係づくりが大切」、「出身局では見たことのない架線集材や木曾ヒノキ林を見るのができ大変興味深かった」といった意見がありました。

人材育成は大きなテーマであり課題です。職場の年齢構成も大きく変わる中、人の縦と横の繋がりは重要であり、今回の交流会は改めて人材育成について考える機会になりました。

編集長だより

（中部の森林へのご意見・ご要望等の投稿は、migoro@maff.go.jpまで電子メールでお送りください。）

♪秋の夕日に照るやまもみじ～♪暑さが長引いたせいで今年の紅葉（黄葉）は10日から2週間ほど遅くなったところが多かったとか。気温の変化も激しく、木々もとまどっていたのではないのでしょうか。各地にはまだ紅葉散策を楽しめるところもあります。

そして秋といえばキノコ（木の子）。今年は豊作となりキノコ狩りを楽しんだ方も多かったようです。当然ながら、食べられるキノコ以外（毒キノコ）も豊作なわけで、その選別は多くの先人の好奇心と探究心、そして少なからぬ犠牲の上に築かれたものです。先人の努力と苦勞と知恵を引き継いでおられる方々に感謝しつつ、道の駅に並べられたキノコ達を眺めていました。



架線集材による素材生産現場を見学する参加者

中部森林管理局のホームページ等へのアクセスは、以下を読み込んでください。



中部森林管理局
ホームページ

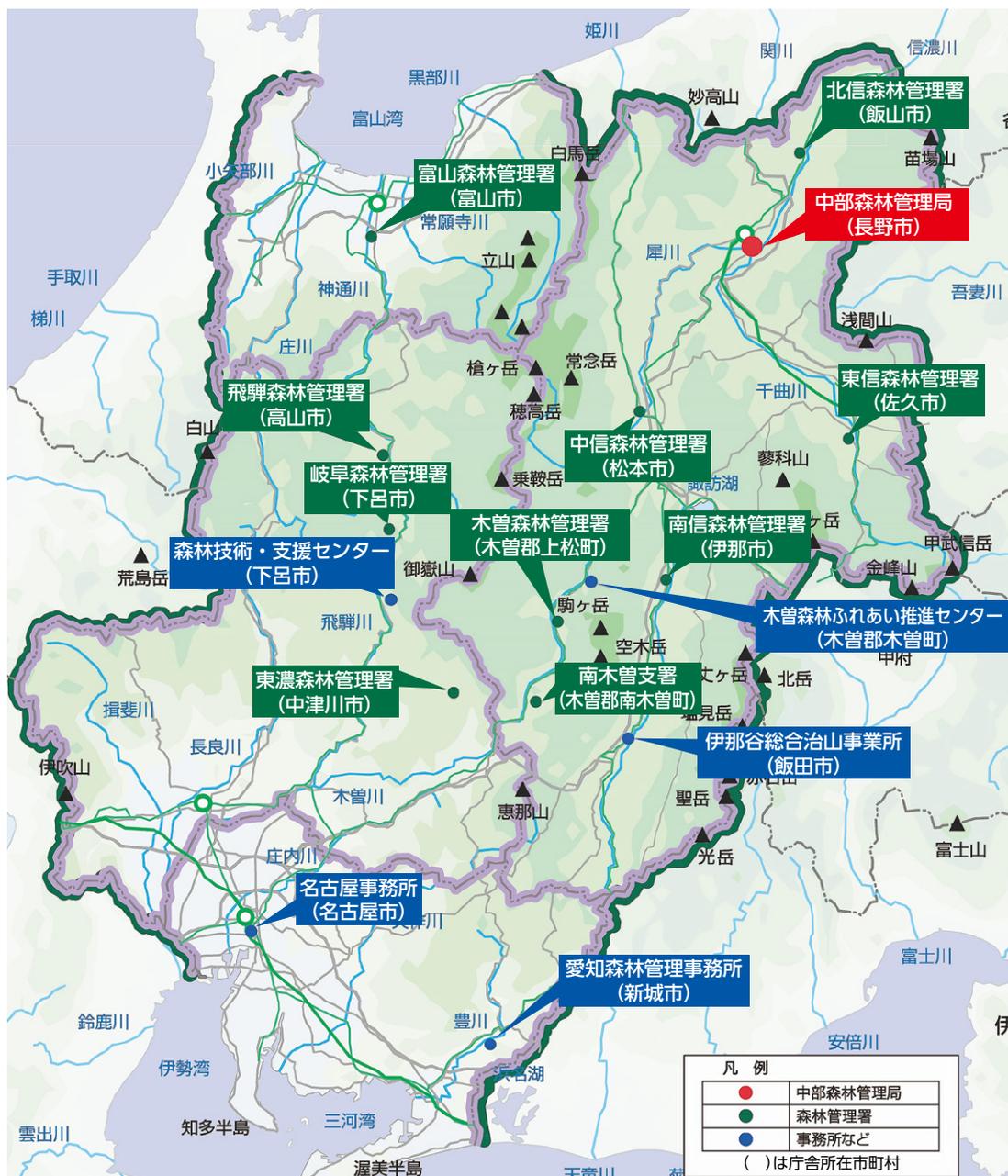


広報
「中部の森林」



用語の解説

本誌文中に掲載している主な専門用語・業界用語を解説。



名古屋事務所	〒456-8620	愛知県名古屋市中熱田区熱田西町1-20	TEL 050-3160-6660	c_nagoya@maff.go.jp
富山森林管理署	〒939-8214	富山県富山市黒崎字塚田割591-2	TEL 050-3160-6080	c_toyama@maff.go.jp
北信森林管理署	〒389-2253	長野県飯山市大字飯山1090-1	TEL 050-3160-6045	c_hokushin@maff.go.jp
中信森林管理署	〒390-0852	長野県松本市島立1256-1	TEL 050-3160-6050	c_chushin@maff.go.jp
東信森林管理署	〒384-0301	長野県佐久市白田1822	TEL 050-3160-6055	c_tohshin@maff.go.jp
南信森林管理署	〒396-0023	長野県伊那市山寺1499-1	TEL 050-3160-6060	c_nanshin@maff.go.jp
木曽森林管理署	〒399-5604	長野県木曽郡上松町正島町1-4-1	TEL 050-3160-6065	c_kiso@maff.go.jp
南木曽支署	〒399-5301	長野県木曽郡南木曽町読書3650-2	TEL 050-3160-6070	c_nagiso@maff.go.jp
飛騨森林管理署	〒506-0031	岐阜県高山市西之一色町3丁目747-3	TEL 050-3160-6085	c_hida@maff.go.jp
岐阜森林管理署	〒509-3106	岐阜県下呂市小坂町大島1643-2	TEL 050-3160-6090	c_gifu@maff.go.jp
東濃森林管理署	〒508-0351	岐阜県中津川市付知町8577-4	TEL 050-3160-5675	c_tohno@maff.go.jp
愛知森林管理事務所	〒441-1331	愛知県新城市庭野字東萩野49-2	TEL 0536-22-1101	c_aichi@maff.go.jp
森林技術・支援センター	〒509-2202	岐阜県下呂市森876-1	TEL 050-3160-6095	c_gijutsus@maff.go.jp
木曽森林ふれあい推進センター	〒397-0001	長野県木曽郡木曽町福島5473-8	TEL 0264-22-2122	kiso-fureai@maff.go.jp
伊那谷総合治山事業所	〒395-0001	長野県飯田市座光寺5152-1	TEL 050-3160-6075	

発行：林野庁 中部森林管理局
編集：総務課 広報
〒380-8575 長野県長野市栗田 715-5
電話：026-236-2531
Mail：migoro@maff.go.jp
http://rinya.maff.go.jp/chubu/

メールマガジンに登録いただくと、広報「中部の森林」を発行日と同時にデジタル版を毎月配信します。
(毎月10日発行※編集の都合で、発行日が遅れることもあります)
登録サイト <https://mailmag.maff.go.jp/m/entry>



本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。